



<http://hatoh.net/>

波 濤

第 50 号 記念号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会
責任者 佐乗 慎二
発行日 平成27年11月11日
会員数 617名(平成27年10月13日現在)

『波濤』50号記念 会長挨拶

神奈川同窓会 会長 ^{さくわ しんじ} 佐乗 慎二



同窓会活動を大きな波濤に育てましょう！

神奈川同窓会会報『波濤』は今回50号の節目を迎えました。『波濤』は25年前の1990年、神奈川同窓会発足と同じ年に創刊され、現在600人を超える会員が親交を結ぶための重要なツールとなっています。2年前の45号からは全面的にカラー化し、写真を多く取り入れるとともにページ数を8ページに圧縮し、読み易くより親しみやすい内容に刷新してきました。また会員の皆さんの投稿を増やし、会員みんなで作る会報を目指しています。

会報の名称『波濤』は創刊に際して、ある想いが込められて命名されています。それは当時のさざ波のような小さな同窓会活動を、会員みんなで盛り

上げて、やがて波濤のように大きく育て上げ、その大きな波濤に乗って社会につながり、世界に開かれた教育を目指そうという想いです。波濤は世界に開かれた港町横浜や放送大学のシンボルマークともイメージが重なります。

今回会員の中から様々に異なるキャリアの4人の方にお集り頂き、『波濤』や同窓会活動に関する感想や期待・要望など語って頂いています。『波濤』は常にこうした会員の皆様の意見を取り入れ、ご理解とご協力を頂きながら今日まで継続し発展して参りました。また『波濤』が50号を迎えることができましたのは過去25年間にわたり、編集に携わって頂いた先輩達の献身的なご努力の賜物です。我々はこうした方々に対して深い感謝の気持ちを持って、その志をしっかりと引継いで育てる努力をしなければならないと自覚しています。

同窓会活動をさらに大きな波濤に育てるのは会員の皆様ご自身です。今後ともどうか宜しくお願いいたします。

豊かな生涯学習空間の拡充に向けて

神奈川学習センター所長 池田 龍彦



神奈川同窓会会報『波濤』第50号の刊行おめでとうございます。「継続は力なり」のことば通り、25年間にわたり同窓会の活動を着実に積み重ねて来られた関係者の熱意と努力に心より敬意を表します。

私が学習センターに着任した平成25年度は放送

大学設置30周年にあたる年で、全国でお祝いのイベントが開催された年でした。翌年は神奈川学習センター設置30周年、今年が初めての入学者を迎えて30周年と、お祭り好きにとっては嬉しい時が続いています。フェスタ・ヨコハマの時に開催されるホームカミングデーには、学生番号が「851-」から始まる方が何人も参加され、また、たくさんの同窓生が参加し、在学当時のことなどを話すのが楽しみです。昭和60年代の懐かしい写真を学習センターの2階廊下に貼り出していますので是非ご覧ください。30年前の「若かった」頃の自分を発見

する方もおられるでしょうし、当時の高橋和夫先生、坂井素志先生、星薫先生もそこにはいます。来年9月はフェスタ・ヨコハマが第30回を迎えるとのことで、楽しい企画が目白押しです。

放送大学学歌にある「生きるとはまなぶこと、まなぶのは楽しみ」、「生きるとは知ること、知ることばよろこび」の歌詞は生涯教育の真髓を端的に表わしていますが、比較的短い期間で卒業する方もいれば、20年以上かけて卒業する方もいて、「汗と涙の困難を乗り越えた」同窓会のみなさんは極めて多様性に富んだ集団と言えらると思います。また、神奈川学習センターは、現役学生、同窓

会員、サークル活動参加者、そして学生間ボランティア組織のK-サポートメンバーが一人何役もこなしながら、混然一体となって活発に活動する稀有な組織となっています。一旦卒業した後に再入学する「学びの楽しさを知った方」がそれだけ多い組織だと思います。毎年600名以上の神奈川同窓会員が会費を支払っているとのことですが、1日3円に満たない同窓会費は、得られる便益からすると破格に安いものと思われます。

神奈川同窓会が更に活発な活動を展開し、同窓会と神奈川学習センターが協働して豊かな生涯学習空間を広げて行くことを期待します。

『波濤』50号 記念座談会 平成27年9月8日(火)

AM10:00~12:00、於・学生相談室

出席者：藤井 輝、星 礼子、大野貴司、伊藤洋子
司会進行：浅井公子、金田保男

浅井：みなさま、お忙しい中、ご出席下さり有り難うございます。同窓会の会報『波濤』創刊号は、1990年に発刊され、今日まで途切れることなく25年が経過し、50号刊行の節目を迎えました。そこで、今日は同窓会活動全般や『波濤』の歴史を振り返るとともに、今後のあり方について、率直な感想や忌憚のないご意見、要望・期待などをお聞かせ頂きたく座談会を企画致しました。まず、会員になられ経歴が長く、長年同窓会活動に携わって来られました藤井さんから、自己紹介をお願い致します。

藤井：同窓会で役員として関わったのは1996年からで、かれこれ20年になります。1998年に第5代会長に推薦され、この年から連合会とも関わって、大きな人脈を得ました。また、センターとの関係強化を含め、「会員間の交流拡大」に務めてきました。

星：1993年卒業と同時に本部役員になるように勧められ3年間お手伝い、神奈川同窓会の役員にも重複して2年目より仲間入りしました。創立10周年『波濤』特集号の編集や、社会貢献事業のプラン・ジャパン活動にも携わり、タイのチャイルドを現地

訪問した事も素晴らしい体験でした。サークル活動では「うえるかむKanagawa」として活動、現在に至っています。全科生として生涯学習をのんびり続けています。

伊藤：2000年秋に入学しました。最初は子育て中心の生活で、何年か後からは、生活と仕事と勉学の並立で孤独な学びで大変でした。どうやって勉強するか、試験に合格できるか心配で、心に余裕がありませんでした。こうして同窓会の活動に参加させて頂ける日が来ようとは、夢にも思っていませんでしたので、とても喜んでいます。2013年3月に卒業し現在は同窓会、サークルなどで友人を得ています。



大野：以前から放送大学に入学したいと思っていました。放送大学を知ったのは、30年以上前に放送大学が試験放送をしていた時で、模擬テストの参加者を募集していましたので、応募して参加したことがありました。定年後入学し、文学好きのため「人間の探究」を専攻し、好きな科目を学び目標10年が8年目の2015年3月に卒業しました。同窓

会・サークルに入会し、心の支えとなっています。同窓会で活躍の場があれば、役立ちたいと思っています。

金田:同窓会活動の概略を私の方からご説明します。同窓会の活動は途切れなく事業をしています。新入会員は毎年50名前後入会し、他の学習センターの同窓会と比較しますと入会者が多いですが、自然退会者や体調不良などによる退会者もでるので、ほぼ600人をキープしています。会員同士の交流の手段として、紙媒体の会報『波濤』、電子媒体の波濤ネットとHP、体面交流事業として、弘明寺サロン、企画行事、同好会などがあります。

浅井:では、同窓会に入会なさり、同窓会活動にどのような感想を持たれましたか。

伊藤:「同窓会主催の卒業祝賀会」に参加させて頂いたことから同窓会の活動が身近になりました。受付で桜茶の心優しいおもてなしに魅せられ、卒業の喜びを実感したことを思い出します。学習センターと同窓会の先輩方のお骨折りでとても温かい卒業式でした。学位記授与式や祝賀パーティーで神奈川の方が活躍していて、心強く感じました。これからも沢山の方に出席していただきたいです。

星:フェスタ・ヨコハマで「ホームカミングデー」も始まりましたが、よい企画だと思います。

大野:積極的にやろうという心意気が伝わってきます。ボランティア精神があり一生懸命仕事をしている印象があります。

浅井:『波濤』については、どのような印象をお持ちですか。又ご要望や期待等お聞かせください。

藤井:私は会報の編集には携わっていませんが、初期の頃はパソコンが普及する前で、ワープロで原稿を作成し、写真を切貼りして印刷会社に持ち込んでいました。これは神奈川に限らず苦労されていました。現在はカラー印刷で立派になりましたね。

伊藤:『波濤』には卒業生から卒業の喜びが寄稿されていますね。みなさん、それぞれ

ご苦労されて学ばれたのだといつも胸が熱くなります。字も大きくて読み易いですね。

大野:ページ数は8ページ位が見易く手頃ではないでしょうか。

伊藤:一文章800字ぐらいが読みやすいと思います。

大野:文芸関係のエッセイなどがあるといいと思います。また趣味なども掲載すると、良いのではないのでしょうか。



伊藤:卒業されてからのことなども、お願いしたいと思います。

永井:編集者として、投稿者探しに苦労しています。49号から謝礼制度を設けました。

星:サークルや知人、卒業生等の中にアンテナを張ることも必要で、卒業後の変化も興味ありますね。

浅井:『波濤』の歴史を知る上で、会員歴の長い藤井さんや星さんのお話から今日の同窓会活動に到るまでの改革や挑戦、ご苦労された事など、大変ご尽力頂いた様子を伺う事が出来ました。

そして、新しく会員になられた方からは、放送大学での学びの過程での体験談、卒業後その学びをどの様に生かしていらっしゃるかを、会報を通して知りたいという思いが伝わってまいりました。

会報『波濤』は、みなさまからの様々な情報を頂きながら、身近に親しみやすくなり、共に育って行くのだと実感いたしました。

本日は、本当に有り難うございました。

文責:永井 藤樹

神奈川同窓会と私 ～会長退任の挨拶に替えて～

前会長 木村 勝紀



平成26年度3月をもって神奈川同窓会会長を退任いたしました木村勝紀でございます。『波濤』50号記念に際し、一言ご挨拶申し上げます。在任中には皆さまから絶大なるご支援ご協力を賜り有難く厚く御

礼申し上げます。在任途中で青天の霹靂とも言ふべき病を得て、志半ばにして退任せざるを得なかったことは、誠にもって痛恨の極みでございました。皆さまにご心配とご迷惑をおかけしました。

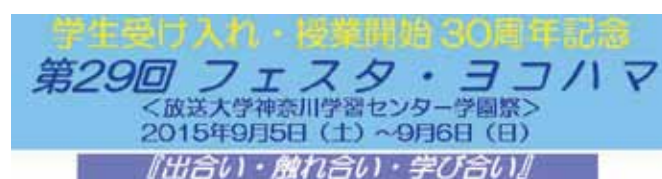
平成17年3月に卒業し、同時に神奈川同窓会に入会、直ちに副会長を拝命し、平成22年には第9代会長に就任し、以来10年同窓会と縁を結び続けてまいりました。会長就任を境に会長代行時代と相前後してこんにちの礎となる幾多の改革に取り組みました。

また、サークル協議会を通して、フェスタ・ヨコハマの活性化や学生団体・同窓会室の開設など神奈川学習センターとの良好な関係構築を軸に協力事業にも微力を傾けました。これらはすべて役員・准役員及び会員の皆さま及び歴代学習センター所長様はじめ職員の皆さまの幅広いご支援ご協力の賜であることは言を俟たない訳ですが、会長として些かでも貢献できたとすればこの上なく幸せなことでございました。

神奈川同窓会(当時神奈川学習センター支部)は平成2年10月設立という歴史と伝統に彩られた由緒ある同窓会です。全国同窓会連合会の有力同窓会としても重要な役割を担いました。神奈川同窓会会長として同窓会連合会の理事、副会長を歴任し、卒業・修了祝賀パーティの実行など陰ながら微力を尽くしました。26年度には連合会会長を拝命し、いざ情熱を傾けんとした矢先の発病でした。

結局26年度は、それぞれ会長不在のまま、会長代行を中心に運営していただき、27年度は、神奈川同窓会会長と同窓会連合会会長をそれぞれ後任を託し、後顧に憂いなく退任をすることができました。今後は相談役として神奈川同窓会を温かく見守ってまいりたいと思います。神奈川同窓会会長を去るに当り、こんにちまでご縁をもっていたいたすすべての皆さまに心から深甚なる感謝を申し上げます。

ありがとうございました。



『出会い・触れ合い・学び合い』を合言葉に、「学生受入・授業開始30周年記念第29回フェスタ・ヨコハマ(学園祭)」は、平成27年9月5日～6日に盛大に開催されました。しかも前年の継続ばかりでなく、年々進化する学園祭を紹介します。

【記念講演会】記念講演会は、講師に南次郎氏を招き『横浜市歌と作曲家南能衛』について講演されました。現在南関東ブロック7学習センターによる「第九を楽しむ会」が結成され2017年3月東京芸術大学奏楽堂にて演奏会が企画されていますので、音楽に関連する絶妙なタイミングの講演になりました。

【親睦交歓パーティー】(立食パーティー)

記念講演に引き続き、待ちに待ったパーティーが始まります。各サークル出店(焼きそば・銘酒コーナー等)、また俳句・川柳大会も行われ歓声があがります。

【ホームカミングデー】学習センターと同窓会の共催で「卒業生へ大学の現状と同窓会の活動状況を紹介する」ことをコンセプトとし2年目になります。昼食時に「茶話会」を開催、茶道同好会の協力でお茶席も提供されました。昨年度は初日のみの開催でしたが、今年は2日間とも部屋が提供できることになり特に2日目は諸先輩たちもゆったり休憩

することができました。放送大学提供のDVD「放送大学30年史」も逐次放映しました。同窓会の心遣いに感動して入会して下さった方もあり、「また10月から学生として勉強します」という方もおられ、勇気付けられました。



【お抹茶コーナー】人気の「お茶席」、年々「茶道同好会」のメンバーも増え今年は2日間で150名の方におもてなしができました。ここまで出来たのも茶道同好会「月例お稽古」の積み重ねの賜物です。

【太極拳】会員の澤村氏の指導の下、主に「呼吸法」について一緒に学びました。その後石田さんによる模範演技が行われ、“白鳥の舞のような、流れるような”実技に魅了されました。

【福引大会】フェスタ・ヨコハマのファイナルを飾る「福引大会」は予め賞品名を掲示したところ、「宝くじ」より確率の高い福引に、皆最後まで残って楽しんで下さいました。

【近隣同窓会の参加者】今年も近隣の同窓会「東京同窓会」[(旧)文京・(旧)東京第一]および「東京足立同窓会」から8名の方が参加されました。フェスタ後の合同「懇親会」では、フェスタ同様大いに盛り上がりました。

【27年度新企画】主催：神奈川サークル協議会、後援：神奈川学習センターによる第29回フェスタ・ヨコハマに新しい催事が加わりました。昼休み時間を前後して「ジャズライブ」「ピアノミニコンサート」が行われ、こちらも盛況でした。次年度以降も力を入れてゆきたいと意気軒昂です。

金田 保男 記

横浜市歌と作曲家 南 能衛 講師：南 次郎放送大学考査

講師の南 次郎氏は、「横浜市歌」を作曲された南 能衛(よしえ)氏の孫に当たられる方である。作詞は森鷗外である。講師は自己紹介も早々に、「横浜市歌」を聴くことを提案され、プロジェクターに歌詞が投影された。出だしは「わが日の本は島国よ/朝日かがよう/連なりそばだつ島々なれば/あらゆる国より舟こそ通え/されば港の数多かれど/この横浜にまさるあらめや」で始まる。歌が始まると会場のあちらこちらから一緒に口ずさむ声が聞こえ「横浜市民なら歌える」という説の実証にもなった。横浜では、「国歌よりも市歌の方が知られている」という仮説が成立しそうな会場の雰囲気であった。

南 能衛は、明治14年7月19日徳島県富田浦町で誕生し、東京音楽学校を卒業後、徳島中学校の教師を経て和歌山県立師範学校に移った。南家は代々徳島藩の家老職を務め「潔さを旨とする」家風の中で育ち、士魂を持つ作曲家であった。師範学校時代、鳥取の音楽家田村寅蔵が言文一致の小学唱歌集を出版し、教育界に影響を与えていた。「きんたろう」、「はなさかじい」や「うらしまたろう」などである。西洋音楽の日本への導入第2期は「ドレミソラ」のヨナ抜き音階で、「蛍の光」や「故郷の空」の原曲はヨナ抜きであり、親しみやすく覚えやすいのが特徴である。



彼は和歌山師範学校時代に混声合唱団を組織して、遠征公演などを行い高く評価されて、東京音楽

学校に招聘され、唱歌編纂掛や小学唱歌教科書編纂委員を拝命した。この時期、横浜市から開港50周年記念の祝祭歌として「横浜市歌」作曲の依頼がもたらされた。鷗外の作詞に先立って、南の曲が作られたという。市歌作曲の後、「潔さ」を矜持する彼は、すべての役職を退き「南オルガン」として知られるオルガン制作に従事している。家具を思わせる装飾性のあるオルガンである。しかし、オルガン制作会社が倒産し大正7年台湾の台南師範学校で教鞭をとる傍ら、台南交響楽団を組織した。彼の音楽への情熱は終生変わらなかった。次郎氏によると「むらまつり」、「ちゃつみ」、「きしゃ」などが南 能衛作曲であると話された。

「横浜市歌」の導入から童謡、唱歌の懐かしさが感じられる分野にまで、話が及んだ。父の「南 能衛を書き残して欲しい」という遺言を実行すべく、本に纏められた氏の思いも私たちに届き、会場はほのぼのとした雰囲気になって講演を終えられた。

詳細は神奈川同窓会HPにアップしてあります。

文責 永井 藤樹

平成27年9月 学位記授与式

9月27日(日)午後3時から、学位記授与式が、第8講義室にて執り行われました。神奈川学習センターの卒業生は117名で、そのうち63名の方が式典に出席されました。式典に先立ちロビーでは、同窓会が桜茶で接待し、ささやかながらお祝いの気持ちをお伝えしました。

式典では、池田センター長から学位記が授与された後、次の言葉が贈られました。「“卒業式”を表す言葉として、アメリカでは“始まり”という意味でcommencementが使われる。皆さんも次の目標に向かって着実にスタートしていただきたい。」続いて、佐葉同窓会会長ならびに6名の客員教授により祝辞が述べられました。

その後所長表彰が行われ、成績優秀者として志田健(タケシ)さん(式典は欠席)、功労者として同窓会会員の古本教子(コモトキョウコ)さんが成績

優秀であるとともに長年センターの花壇などの環境整備に努められ多大な貢献をされたことにより表彰されました。また、古本さんは卒業生代表として挨拶をされました。



他に、放送大学名誉学生(すべてのコースを修了した学生に付与される)として、同窓会会員の吉田啓子さんが表彰されました。

式典終了後、「祝賀茶話会」を第7講義室において、学習センターと同窓会で共催しました。多くの卒業生が参加してくださり、賑やかに歓談の輪が広がりました。全員の1分間スピーチでは、卒業までの苦労や喜び、再入学のことなどが披露されました。その中で武田玉子さんは韓国から帰化されて、日本語がよく解らない中で、お仕事をもちながら皆さんに支えられて卒業できたことへの感謝の気持ちを述べられました。このようにして皆さんで卒業の喜びを分かち合うと同時に、次の“始まり”に相応しい祝賀茶話会が盛会のうちに終了しました。

高垣 和子 記



卒業生寄稿

学んで己の「無学」を知る

清水 孝



現役を引退して、始めに考えた事は第一に体力維持(増強)が必要だと認識した事です。その理由は如何に長く健康寿命で居られるか、如何に長く好きな事が出来るかとの単純発想でした。その様に思っていた時期に

放送大学の案内書を手にし、体力だけでは駄目との思いもあり、一方で知的好奇心が湧き放送大学への入学を決めていました。発想の原点は「体力」「気力」「知力」を年齢にあったバランスで如何に保って行くかが念頭にあったからに他なりません。

平成22年10月に入学を致しました。結果的には27年3月「社会と産業」を卒業致しました。当初は10年で卒業できればとの思いで入学しましたが！現在は「人間と文化」へ再入学致しました。

入学後に感じた事は ①多くの皆さんが真面目で勉強熱心である ②人生経験が豊富且つ多士済々の集まりである ③勉強しているからか元気である ④人の良い、面倒見の良い人の集まりである 等々を感じた事でした。

この様な環境下で、素晴らしい仲間に出会えた事は何よりの「財産」となっています。この貴重な財産のお陰で大学を予定よりも早く卒業する事になりました。放送大学に継続して在籍できたのもこの仲間達と「学生と言う舞台」で忌憚なく垣根を越えて楽しく語り、飲み、情報の共有と交友を深めることが出来た結果です。現役時代にはない「ふれあい」かと思えます。

先輩諸氏には、大学を数度に亘り卒業を経験されている熱心で努力されている方々が大勢おられます。今も継続して「チャレンジ」されています。この様な先輩の姿勢を見て自分自身も卒業しようとの思いにさせてくれました。

勉強して卒業して思う事は、武者小路実篤氏の言葉です。

「学んで己の無学を知る。これを学ぶと言う」

学ぶとは、今まで知らなかったことを知る事・・・すなわち「気づき」にある。と言う意味でもある。読売新聞「編集手帳」より

確かに、勉強もして、卒業もしました。「武者小路実篤」氏とは大いに土俵は違いますが、自分が本当に「無学」であると感じるこの頃です。これからは生涯学習と考え、継続して学んで行きたいと考えています。

頑張った私

古本 教子



私は30年間学習塾を運営してきました。子供さんや親御さんと面談をする機会が多く、指導の場面や面談が上手に出来るようになりたい、気持ちを分かってあげたいなどという思いが入学の動機です。そこで教育心理や児童心理などを系統的に深く学びたいと思うようになりました。またセンターと住まいが近いことも学習意欲を後押ししてくれました。

2001年4月、入学式に参列し、必ず卒業するという目標をたてました。その日にサークルの勧誘を受け、その場で入会し現在に至っています。仕事をしながらの勉強は時間に追われ、いつも余裕のない生活でした。毎朝3時に起きて6時までが学習時間で外出時は必ず印刷教材を持参し少しの時間も惜しんで教材を読みました。はじめての卒業式では試験勉強に追われたことなどが思い出され、おもわず感動で涙があふれました。その時80歳代の女性が全コースを卒業し表彰されました。放送大学には素晴らしい方が学んでいることに驚きました。そしてその時、私は次のコースへの再入学をはっきり決意しました。

障害児福祉関連の面接授業のとき内容に深く感動し、二日目の最後のコマが終わってから、とっさに教授の元へ近より自分の想いを伝えたことを思い出します。また去年は千葉の面接授業で仁科エミ教授の「音と音楽への情報学的アプローチ」を受講しました。授業の中で2日間にわたってインドネシアの民族

楽器「ガムラン」10台を皆さんと合奏したことはとても楽しく素晴らしい授業でした。ガムランは脳を癒す超高周波を出すそうで体にとても良いということです。

さて私が今まで学習を続けてこれたのは、サークルに入っているいろいろな方と友達になり、楽しい行事などを通して互いに励ましあって良い関係を築けたからと思っています。孤独な学習も「みなさんが、頑張っている」と思えば、楽しく感じられました。サークルの元会長さんは全コース卒業された大先輩ですので、良きモデルでした。その方は、「苦手な科目でも10回読めば何とかなる」とおっしゃいました。そのことばを励みに学習を続け、この度、何とか5コース目を卒業することが出来ました。これを契機にこれからは、ゆっくり、じっくり楽しみながら、こつこつとマイペースで学習を続けたいと思います。

会員寄稿

私の恩師 井上 勲さん

高橋 昭善

井上先生(筑波大学教授)は、わたしの修士課程時代の恩師です。先生は藻類研究の第一人者であると同時に、学生への指導も第一人者であると考えています。

研究室の学生に対する、先生の徹底した指導ぶりは、並みではありません。

私は社会人入学者でしたが、研究のあり方を徹底的に教え込まれました。新しいことをやろうとする学生には、実に自由でした。やりたい研究は、黙って環境を整え、やらせておりました。先生が学生に要求していたのは、単に知識を学ぶのではなく、研究にかかわる「創造性」であったと思われま

す。私の研究は、種々の顕微鏡を用いて海藻の細胞を調べるものでしたが、未熟なため他の学生よりも失敗が多く、試行錯誤の連続でした。そのため研究室の予算は常にオーバーであったと思われま

す。しかし先生からは失敗に対する一言の叱責もなく、見守られているだけでした。あるいは諦められていた？。

ただ、週一回のセミナーは厳しく、学生に対する指導は徹底していました。発表者は、それに関する文献、



左:高橋昭善さん 右:井上 勲先生

資料で鞆はいっぱい。文献の解説、データの解釈、結果と論理性、自身の考え、など、先生か

らは容赦のない突っ込みです。平気で学生を叱咤しますが、激励はしません。何も話されないとき、その発表はおしまいです。そのため、学生の誰もがセミナーにかける時間は、並みではありませんでした。

論文のチェックは更に厳しく、徹底していました。真っ赤になって返ってきます。何度ものチェック。手抜きだとすぐばれます。論文(発表)は、学生だけではなく、教授の指導性が問われもします。

現在、井上研究室出身の多くの学生は、それぞれの道で研究者として活躍しています。

昨年、先生の定年退職を前に「先生宛ての思い出文集」が学生有志によって出されました。その文集に載ったひとりのことば、

先生は一流の学者であり偉大な教育者であられる訳だが、私はその実態を稀代の「仕掛け人」と見ている。仕掛け人は、人を騙し、人をその気にさせ、思わぬ切り口から人に光をあてる。私は学問の世界では先生ほどの仕掛け人は他に知らない。と。

幕末動乱期の舞台裏

伊予大洲藩と「いろは丸」の歴史

藤本 勲

6万石の小藩である私の出身地、伊予大洲藩が何故高額な「いろは丸」を買ったのか、単純な動機から歴史探索を始めた。

ペリー来航(1853年)以降、国防力の強化を目指して安政の改革を断行した老中阿部正弘から大老井伊直弼は「安政の大獄」の道を経て、日米修好通商条約締結により開鎖問題を決着。こうした中、孝明天皇の開国政策反対により尊王攘夷論が高まり始めた。

時局混沌とする文久2年(1862)坂本竜馬が土佐を脱藩。勤皇派である大洲藩のルートを選び長州に渡った。当時大洲藩は朝廷と姻戚関係にあり、幕末には藩主加藤泰幹の娘が長州長府藩主毛利元周の正室として嫁いだこと等で尊王攘夷派の立場にあった。元治元年(1864)7月蛤御門の変で長州勢が敗北、親戚藩として長州問題が悩みの種であった。十三代藩主加藤泰秋は尊王攘夷の下準備をし、幕府に対しては根回しを行った。慶応2年(1866)「郡中、長浜の海防を充実すること、小銃購入を急ぐこと等」の幕命が下された。これにより蒸気船を購入するため国島六左衛門が長崎に赴いた。この頃坂本竜馬率いる亀山社中は資金難に陥っていて、薩摩の雇い人の立場にあった。長崎の事情に精通していた竜馬は薩摩の恩に報いるために、あこぎな取引もせざるを得ない立場にあった。竜馬の仲介で蒸気船「いろは丸」を大洲藩に4万2千両で売りつけたのは慶応2年(1866)4月であった。その数ヶ月後薩摩藩の斡旋で水夫3名、蒸気方3名を大洲藩へ貸し出している。同年8月14日、いろは丸の売買約定書が交わされた。竜馬は「いろは丸」を借りて仲介貿易を考えていたが、国島六左衛門も商いをするつもりでいたので、亀山社中に貸すつもりはなかったが、嫌がらせも受け貸さざるを得ないよう策謀を受けた。そういった心労から国島は12月24日自害した。大洲藩史からは「その他の債務」の責任をとったと考えられると述べているが、真相はさだかではない。国島の下役である居合の達人井上将策は竜馬を斬り捨てるほどの強い恨みをもっていたとも伝えられている。

年が明け1867年3月頃、土佐藩後藤象二郎の仲介で海援隊(亀山社中から変更)が「いろは丸」を商船として半月(1航海)500両で借り受けることが決まった。4月19日竜馬以下海援隊士16人が乗り込み、長崎から大阪へ向かった。いろは丸は順調に航海を続けていたが23日の夜、備讃瀬戸六島沖で紀州藩船明光丸と衝突し鞆港まで曳航中、沈没した。紀州藩が同年11月11日ボードインへ大洲藩の購入残債27,280両の手形を振出し2日後、いろは丸事件

損害賠償交渉が成立して、7万両の賠償金が支払われた。同年12月海援隊は賠償金の内15,435両を受取っている。

後書:この探索は意外な程手間取った。史料によっては見解の相違や不可解な謎があった。幕末乱期の舞台裏を演出した坂本竜馬はヒーローとして多くの史誌に編纂されているが、悲運の「いろは丸」は、決して竜馬を高く評価しない。



スキエンティア

大橋 陽子



スキエンティアという言葉が好きである。マンガではない、女神サマとして現れるらしい。scientiaはscienceの語源と聞く。しかし、私のイメージはもっと漠然として広く、知を愛する、あるいは知をあそぶ、と云う程の意味である。

放送大学学歌に「知ることはよろこび」とある、それ。論語にも「朝聞道、夕死可矣」という。

幼児(とは限らないが)がはじめて縄跳びをとべたとき、あるいはどうしてもテキストの意味が通じなくて呻吟していた外国語学習者が、ふと一つの単語に別の意味があることを知ってやっと著者が何を言おうとしているかがわかったときも同じことかもしれない。結果として与えられる達成感は予期せぬ報酬となるが、ヒトは知るためだけに、何も期待せずに

どんな努力もできる動物でもある。昔、象牙の塔には日露戦争を知らなかった学者がいたという話がある。真偽のほどは別として、20世紀はじめには市民の間にそれを許す余裕があった。

しかし、今や生老病死に苦しみ彷徨う人々が世界中に少なくないとき、科学者は自己満足をやめて世のため人のために奉仕すべきだという風潮はいわば当然の成り行きであって、役に立つ学問が尊重されるようになった。しかし、特に近年、20世紀最後の四半世紀から徐々に明らかになってきたこの傾向は行き過ぎではないだろうか。近々30年位の間納税者の目はそんな独善的な科学者達のおあそびを許さなくなってしまった。研究には資金が必要だから、役に立つ成果を挙げて、世間様に納得していただければ研究を主とする大学はなかなか生き延びることができない。

放送大学が“いつでも、どこでも、だれでも”学べるという使命感を以って我々学生を押し上げて下さることはよく知られている。しかし、もう一つ、他大ではなかなかできない教養主義という、いわば“知のあそび”も放送大学では今でも残されているというのを世の中はもっと知ってもよいのではなかろうか。単位をとるもよし、とれぬもよし、贅沢な授業をもっと気楽に視聴してもよいのではないかと、時限はないのだから。

太極拳と健康について

岡本 興和

同窓会では春と秋のイベントに合わせて太極拳の実践訓練を行っている。2015年3月には訓練に先立って、放送大学の特別講義「自分が分かる細胞科学」講師跡見順子東大名誉教授で取り上げられた「太極拳はなぜ健康によいのか」についてコーチの澤村雅嗣さんから解説があった。

例えば、宇宙飛行士が無重力下で長時間過ごし、地球に帰還すると歩けなくなったり、また数か月寝たきりで過ごす歩行困難になることを私たちは知っている。これはストレスタンパク質が減少したからである。「生命の単位を構成している60兆個の細胞は無数

のタンパク質を含んでいる。その中にあるストレスタンパク質は生命の維持や免疫力に深いかかわりがあり、無重力下や寝たきりで過ごすと、そのストレスタンパク質が減少、退縮して、免疫力低下や筋肉の廃用性委縮が起こり、生活習慣病を発症しやすくなる。」

このストレスタンパク質は有酸素運動で身体に継続的にマイルドな負荷をかけ、細胞に力学的刺激(ストレス)を加えることにより、効果的に発現させることができる。

有酸素運動としては、ラジオ体操、ウォーキングなどがあげられる。中でも太極拳はゆったりとした動きで、中腰の姿勢を保ちながら体にマイルドな負荷がかかる。更に、体重移動によりバランス感覚と意識の集中力が養われ、転倒を防止したり脳の活性化が促される。太極拳はストレスタンパク質を効果的に発現させる運動であり、細胞レベルからの健康効果もたらされる。



この日の太極拳の練習は最初に呼吸法や気功、歩き方の練習を3人のコーチの動きを見ながら、何回も行い、体が整ったところで、25名の参加者を2組に分け、簡化二十四式太極拳を行った。

(これは岡本興和さんの遺稿になります。)

「弘明寺サロン」へのお誘い

神奈川同窓会では、「弘明寺サロン」として多彩な講師による話題提供と講師を囲んでの歓談の時を持ってきました。毎回「面白かった」「新しい知識を得た」「講師や参加者と話を出来たのが楽しかった」等のご感想をいただいています。

皆様も弘明寺サロンにいらっしゃいませんか。学習センターで行う場合は事前申込不要で、どなたでも自由に参加出来ます。

- *日時:原則として第2土曜14:00~16:30
 - *場所:神奈川学習センター講義室
- 講演後に同窓会・学生団体室で歓談
- *日程や内容等の詳細は、学習センター掲示板及び神奈川同窓会HPでご案内いたします。

最近のサロンの実施状況を紹介します。

●「ストック社会における望ましい住宅像」

2015年3月 講師:浅井公子さん スtock社会における住宅施策である長期優良住宅について、図や写真を使って分かり易く説明していただきました。

●「野外型面接授業の紹介」2015年4月

講師:石橋正彦さん 各地の学習センターで開催されている野外型面接授業の利点や楽しさを、これまでに受講した6例を挙げてお話していただきました。

●「海辺の観察:海藻」2015年5月

解説:高橋昭善さん、木村光子さん 野外型弘明寺サロンとして、横須賀市の天神島で海藻の観察・採取・同定を行いました。自然の美しさや繊細さに触れ、解説を伺い、楽しい一日を過ごしました。



●「なぜ、いま『紙芝居』?」2015年9月

講師:平松英子さん 紙芝居の実演も交えて、紙芝居の歴史やその本質、世界に広がる紙芝居、自作紙芝居の紹介など、紙芝居の魅力をつつりと伺いました。

●「サリン事件等被害者への後遺症ケア支援・活動」

2015年10月 講師:山城洋子さん サリン被害の後遺症は、20年経っても消えるものではありません。「NPO法人リカバリー・サポート・センター」による被害者支援活動について、話を伺いました。

毎回の開催記は、神奈川同窓会のHPに掲載していますのでご覧ください。

弘明寺サロンの今後の予定は以下の通りです。

皆様のご参加をお待ちしています。

●11月26日(木) 企画行事とのコラボ

「みなとみらいクラシック・クルーズ」鑑賞会

●12月16日(水) 講演会

講師:神奈川学習センター池田龍彦所長

安達 美帆子 記

企画行事

春の行事を6月12日(金)に開催しました。横浜市紅葉ヶ丘「横浜能楽堂の施設見学」と野毛「にぎわい座・三遊亭円楽独演会」の鑑賞でした。当日はあいにくの雨模様の中22名の参加でした。JR桜木町駅から急な紅葉坂を登り、掃部山公園の一角にある横浜能楽堂へ。学芸員の説明案内で施設内部を見学し、白足袋着用で本舞台に上がる貴重な体験をしました。昼食後、にぎわい座で「唐獅子屋政談、青菜、欠伸指南」などで一時の笑いを楽しみました。感想など詳細は、放送大学神奈川同窓会HP第38回弘明寺サロン開催記をご覧ください。

渡邊 久江 記

特別緊急支援 ネパール大地震

2015年4月25日(日本時間午後3時11分)頃、ネパール中部でマグニチュード7.8の地震が発生した。インドや中国など周辺国合わせ、8,700人以上が死亡し、行方不明者も多数との報道があり、我がことのように心を痛めていました。私たち同窓会は、毎年行っている5人の子供たちに対する援助の他にも、できる限りの援助が出来たらと話しかけていたところでした。

そこで毎年プラン・ジャパンへの寄付として頂いている中の一部を、総会において特別緊急支援15万円の予算案を提出いたしました。今回その中の5万円をプラン・ジャパンを通じて、ネパール大地震のために寄付させていただきました。毎年快くご寄付していただいている皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

赤松 孝子 記

次回映画上映会のお知らせ

神奈川県同窓会の映画研究同好会は平成25年度に会員相互の『顔の見える交流の場』として発足し、年2回(2月&8月)開催し、今迄に6回の上映会を開催しました。上映終了後は学生団体室・同窓会室で参加者の皆さんと懇親しています。

次回7回目は平成28年2月13日(土)に「ビルマの豎琴」を予定しています。
寺村 紀美夫 記



事務局だより

平成27年10月1日現在の会員数は617名です。また平成27年7月11日(『波濤』49号掲載)以降平成27年秋季入会者は下記の通り15名の方です。

心より歓迎申し上げます。敬称を省略します。

川延 峯男	加藤 弘子	久我 章
丸田 英代	代田 富久	吉川 圭祐
森 慶子	岸田 道則	大田 美由紀
武田きみよ	袴田 江美	小竹 啓子
仁木 美登里	武田 玉子	佐藤 芳行

お願い

住居移転のあった方は、神奈川県同窓会に連絡をお願いします。ハガキまたはホームページのURL:<http://hatoh.net/>の「入会案内欄」にても結構です。また例年総会案内と一緒に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので未納入の方はご協力の程お願いいたします。

口座名 神奈川県同窓会
口座記号番号 00250-4-□□16083(右詰め)
年会費 1,000円(送料はご負担願います)
お問い合わせ 金田 保男 Tel.045-333-4426
E-Mail yasuo-kaneta-626531@hotmail.co.jp

投稿写真展



親不知洞門
日本橋から北陸道を歩き、現在洞門を通過中
古本 教子さん



柴又帝釈天の蓮の堅果
村田カズ子さん

訃報

岡本興和様におかれましては、病氣療養中の処、9月7日逝去されました。(享年77歳)氏は永年「神奈川県同窓会役員」として活躍され、特に波濤編纂に尽力し現在の礎を築き前号『波濤』49号完成まで手掛けられました。永年のご指導に感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。 合掌

編集後記：節目になるこの50号を「記念号」として編集しました。座談会を催し、通常8ページの『波濤』を12ページに増やしました。編集の中心的存在でおられました岡本さんの突然のご逝去により、一時は発行が危惧されましたが、みなさんのご協力を頂き、刊行することができました。お礼申し上げます。
永井 藤樹 記